

講義Ⅱ・事例研究「地域コミュニティの核となる公民館」

講義・グループワーク資料

大分大学高等教育開発センター

岡田 正彦

1. 事例発表の効果的活用に向けて

○事例発表の聞き方と活用の仕方の有効性（大学の単位評価になぞらえて）

寝てたので、あるいは眠くて、聞いてなかった←「評価 F」

聞いてはいたけどどこがすごいかどこが難しいか実感がわからなかった←「評価 D」

興味深く聞き、元気が充電できた。明日からまた頑張りたい←「評価 C」

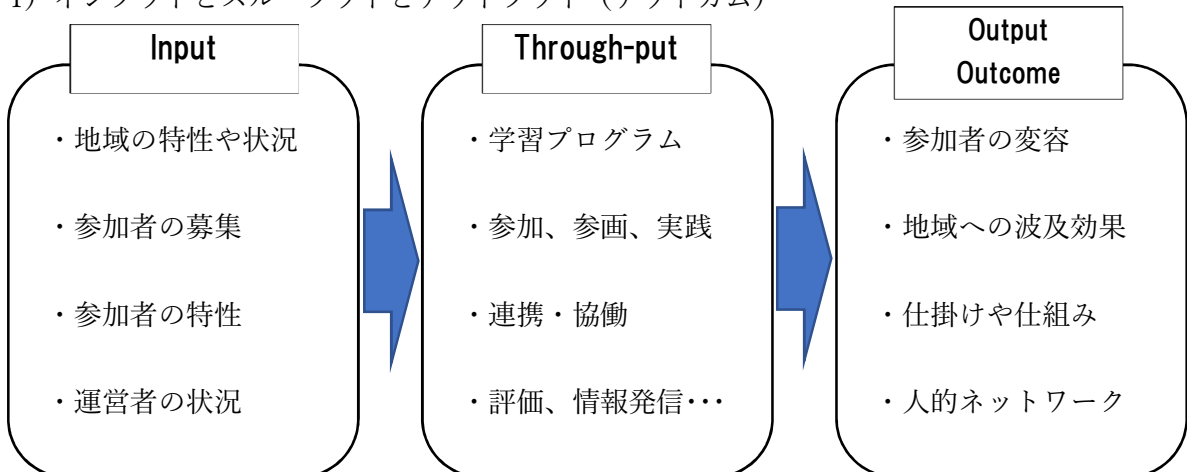
熱心に聞き、なぜそのような成果に結びついたか内容や方法の工夫も分かった←「評価 B」

熱心に聞き分析して、自分の取り組みに具体的に生かすことも明確に←「評価 A」

熱心に聞き分析して、具体的気づきといつか使える発想を獲得←「評価 S」

○事例発表から有効に学ぶための視点

1) インプットとスループットとアウトプット（アウトカム）



## 2) 事例を構成する要素の分析と要素間のつながりの検討

### ①目的と目標

目的、目標、評価項目や指標の設定、データの収集、など

### ②取り組みの概要

主体、組織、内容、方法、参加者、連携先、期間、経費、場所、など

### ③取り組みの展開

#### a.運営側

担当者、学習プログラム、展開のプロセス、積極的参加の促進、連携・協働、など

#### b.参加者側

雰囲気、つながり、参加度、協議・協働、行動化、満足度、など

#### c.展開の計画と管理

展開計画の作成（段階の設定）、実施状況の評価、フィードバック、など

### ④取り組みの成果

成果の検討（測定）、成果の性質（一時的・継続的）、波及効果、他の取り組みでも活用できる仕掛けや仕組み（システム）、形成・強化されたネットワーク（人的、組織的、情報など）

### ⑤取り組みの課題

残された課題、課題への取り組み計画、など

## 2. 事例発表から具体的に持ち帰り活用すること検討グループワーク

### 1) 事例の要素の活用可能性を3段階に分類

今日聞いた2つの事例を構成している様々な要素について、それ自体の素晴らしさではなく、その要素を自分の公民館（自治体）で具体的に活用できるかどうかという視点で3段階に分類するグループワークを行います。

○：そのまま活用できる、活用の効果が高い、活用の仕方が明快、など

△：活用したいがアレンジが必要、活用についてメンバーの意見が不一致、活用の仕方が不明確、など

×：自分の公民館（自治体）では活用できる状況にない、活用しようと思わない、など

### 2) ワールドカフェ方式で他グループの検討を視察

①グループ内で、セッション1とセッション2で自分のグループの検討を紹介する担当者を各1名決めます。それ以外のメンバーはそれぞれのセッションでなるべく別々のグループに取材に行きます。

②セッション1とセッション2で他のグループでの検討を聞き、自分たちの検討と同じところ、違うところを記憶します。

③自分のグループに戻り、他のグループの検討を持ち寄って、自分たちの検討の有効性や妥当性を協議します。

3) 自分の公民館（自治体）の課題解決にむけて具体的に持ち帰ること・やってみようと思うこと

今日の事例発表から直接触発されてでもよいし、事例の検討の中で間接的に気づいたことでもよいので、自分の取り組みで課題解決のために具体的に持ち帰ること、あるいはやってみようと思うことを考えて、以下の空欄に記入してください。

取り組みの名称・テーマ	
解決したい課題	
具体的に持ち帰ること やってみたいこと	
想定する効果	

各グループで自分が持ち帰ること・やってみようと思うことを相互に発表してください。

（グループワークが盛り上がって時間が押した時はカット予定）

### 3. 地域コミュニティの核となる公民館に向けての問題提起

#### 1) 従来の消極的な取り組みの公民館と地域コミュニティの核となる公民館

##### ○従来型の消極的な取り組みの公民館

- ・貸し館と講師が確保されている教室・講座が中心でいくつかの講座を主催講座として実施
- ・来館者の多くは高齢者や助成のリピーターによって占められている
- ・公民館事業が地域の活性化やつながりに波及効果を生み出すことはほとんどない
- ・公民館に来館しない有職者にとって、公民館はほぼ関わりのない施設

↓↑

##### ○地域コミュニティの核となる公民館

- ・学習者の積極的な関与によって教室・講座が運営されており、公民館はそれを支援。自主的な教室・講座ともその成果活用の面で連携が進んでいる
- ・多様な連携・協働により、公民館来館者が増加・多様化すると共に、直接公民館に来館しなくても公民館の取り組みについて知っている・関わっている住民が増加
- ・公民館が様々な取り組みや組織、個人を結びつけ、連携・協働をプロデュースしコーディネートすることで、地域の活性化が目に見える形で進展、他の取り組みにも活用できるネットワークが形成されている（波及効果が大きい）
- ・様々な連携・協働に関係する中で従来来館していなかった層の人も公民館に来館。また、直接来館せずとも、公民館の取り組みを知っている人、関わっている人が増加

## 2) 地域コミュニティの核にむけて公民館が持っている特性と課題

### ①数が多い＝地域密着、あるいは公民館間連携によるネットワークでの取り組み

公民館数は 14,842 館（平成 27 年度社会教育調査）

（小学校は 20, 601 校：平成 27 年度学校基本調査 cf.19,892 校：平成 30 年度）

公民館の間の連携がもっと進展すれば、連携した取り組みは増やせるはず

小規模公民館（自治公民館、校区公民館など）の機能を高める取り組みが必要

公民館数の減少や予算減、職員減（非常勤化）など厳しい状況ではある

### ②中立的であると認識され、信頼されている

地域では様々な組織・個人が取り組みを行っているが、様々な摩擦や衝突も起きている

公民館はその中では、中立的でできればつながりたい相手と認識されていることが多い

学校、NPO、企業などとの連携の方法、内容、について開発できる部分は大きい

社会教育関係団体への支援については見直しや改善が必要な部分も（活動の維持が難しくな

くなってきている団体を労力の提供や経費の支出で支援するだけでは厳しい）

公民館の取り組みにおいて個別的な連携・協働を生み出すだけでなく、汎用的で継続可能

な連携・協働を生み出し、地域教育プラットフォームの中核となることが期待されている

職員数や専門性、経費、など制約も多く、公民館職員だけでは大きな成果は生み出せない。

さまざまな連携を生み出さねばならないが、多忙化は進んでいる